

# BOOK REVIEW

京都光華女子大学短期大学部 歯科衛生学科

歯科衛生士 白水雅子



## なぜ感染対策が必要なのか、その本質を理解し、最新の実践方法を会話形式で楽しく学べる！

**歯科医院の感染対策マネジメントブック**  
チームで取り組む世界基準のインフェクションコントロール  
佐野喬祐 著

A4 判変／136 頁／定価 5,940 円（本体 5,400 円 + 税 10%）／医歯薬出版（2025 年 4 月）

皆さんは、この 20 年間で社会がどのように変化したと感じますか？スマートフォンの普及をはじめとしたテクノロジーの進化、深刻化する環境問題、少子高齢化の問題や多様性の推進などの社会構造の変化もあります。このように急速に変化する時代でも、一部では変わらずに続いているものがあります。私はその一つとして、「歯科医院の感染対策」をあげたいと思います。

21世紀になってすぐのころ、器具の再生処理とは、器具を手洗いすることや超音波洗浄を用いることでした。そして、滅菌とはオートクレーブ（小型高圧蒸気滅菌器クラス N）が王道であり、接触表面の消毒には、酒精綿（消毒用エタノール）が万能だと信じ、疑う余地もありませんでした。

ところが、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に状況は一変しました。歯科医院の感染対策の常識が崩壊したからです。コロナ禍を経た現在、感染対策を抜本的に見直した医院と、コロナ禍以前の手法に戻った医院があり、両者の感染対策に対する意識の差は歴然としています。総じて、新しいことを受け入れず、古い体制を続けることは短期的な安心感をもたらしますが、長期的には大きな損失を招く可能性があります。古い体制を維持することで生じる弊害

として、他院との競争力の低下があげられます。旧来の方法に固執していると、市場のニーズに応えられなくなってしまうのです。実際、患者さんの感染対策に対する意識はこの 5 年間で確実に高まっており、感染対策が不十分な歯科医院は選ばれにくくなっています。

その一方、現場では感染対策を見直そうとしても「何から始めたらいいかわからない」という声を聞きます。そこで、ぜひ活用してほしいのが本書です。本書には、歯科医院における感染対策の問題とその解決方法が明確に示されています。

では、具体的な本書の活用方法をお伝えします。まず、第 1 部【インフェクションコントロールを始める前に】を用いて、院内の感染対策に関する知識を医院全体で共有しましょう。新人スタッフや復職された方のために、意識のプラッシュアップを図る目的にも有用です。次に第 2 部【インフェクションコントロールの実際】は、臨床現場で困っているところから読んでください。そして、読了後はアウトプットすることが重要です。医療の変革において最初の一歩を踏み出すことは決して簡単なことではありませんが、小さな一歩が大きな成果につながります。できることから始めて、院内をよりよい環境にするために前進しましょう。